

山梨県CKD対策の進捗と課題



山梨大学医学部内科学講座第3教室

北村 健一郎



UNIVERSITY
OF
YAMANASHI

山梨県の現況



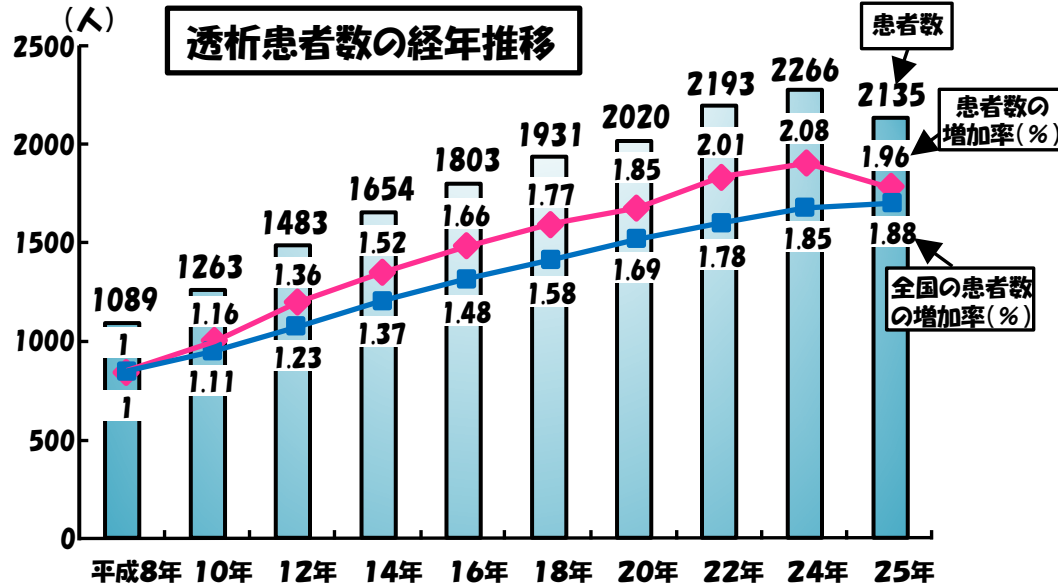
山梨県

人口	82万人
高齢化率	26.6%
出生率	7.3
平均寿命	男性 79.54歳(25位)
	女性 86.65歳(13位)

011

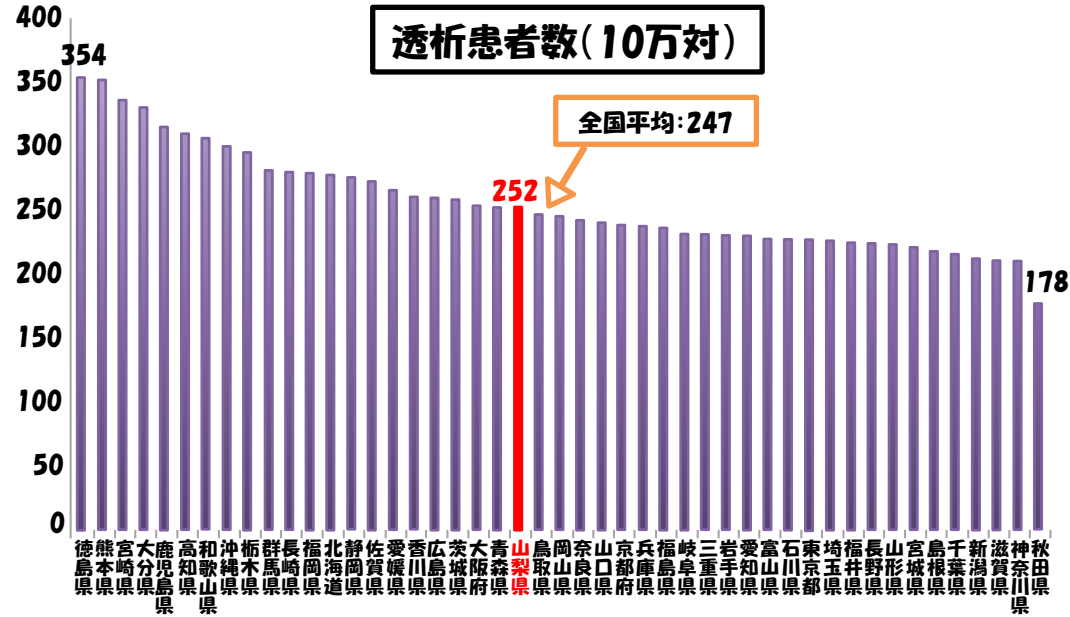
山梨県の透析患者の現況

透析患者数の経年推移



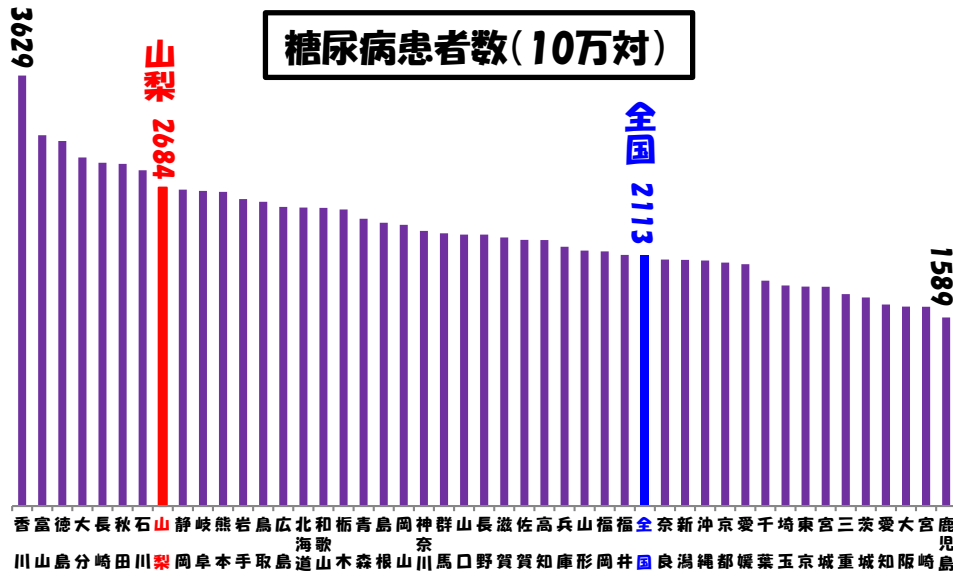
出典: わが国の慢性透析療法の現況2013年12月31日現在より一部改変

透析患者数(10万対)



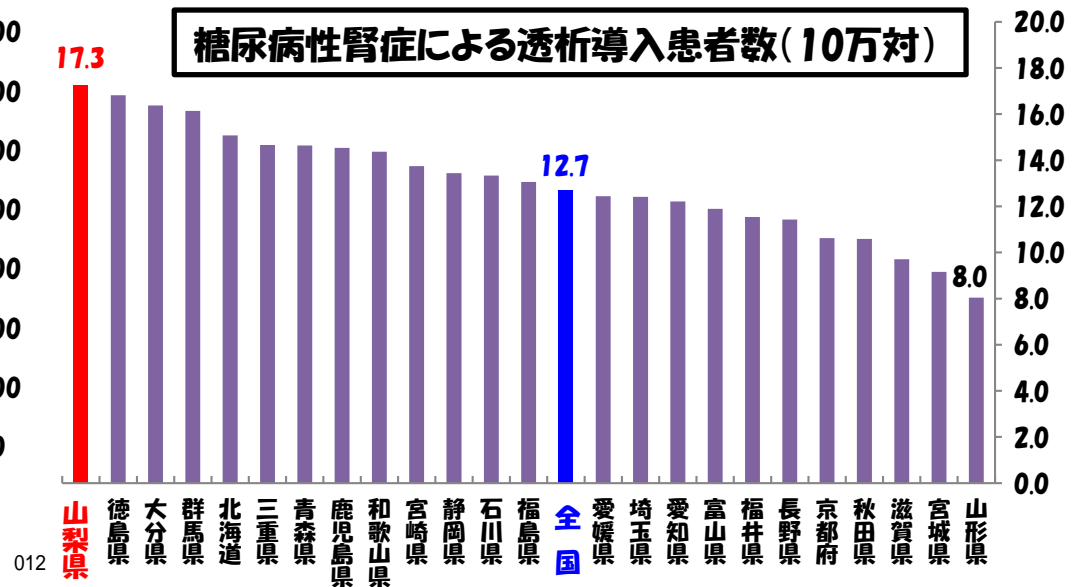
出典: わが国の慢性透析療法の現況2013年12月31日現在より一部改変

糖尿病患者数(10万対)



出典: 厚生労働省患者調査 総務省人口推計(平成23年)

糖尿病性腎症による透析導入患者数(10万対)



山梨県が事業としてCKD予防対策を予算化

慢性腎臓病予防推進事業

- 山梨県CKD予防推進対策協議会の設立
- 山梨県腎臓専門医会議の設立
- 市町村の特定健診への血清Cr値測定費の助成
- CKD病診連携登録医制度の制定
- コメディカルスキルアップ研修の実施
- 市町村地区保健師会議の開催
- 普及・啓発キャンペーンの実施



山梨県において人工透析患者数を減少させるために腎臓病の啓発、予防、重症化防止に努め、もって県民の健康増進に寄与する

5年間で新規人工透析患者導入数を10%減少させる

山梨県CKD予防推進対策協議会



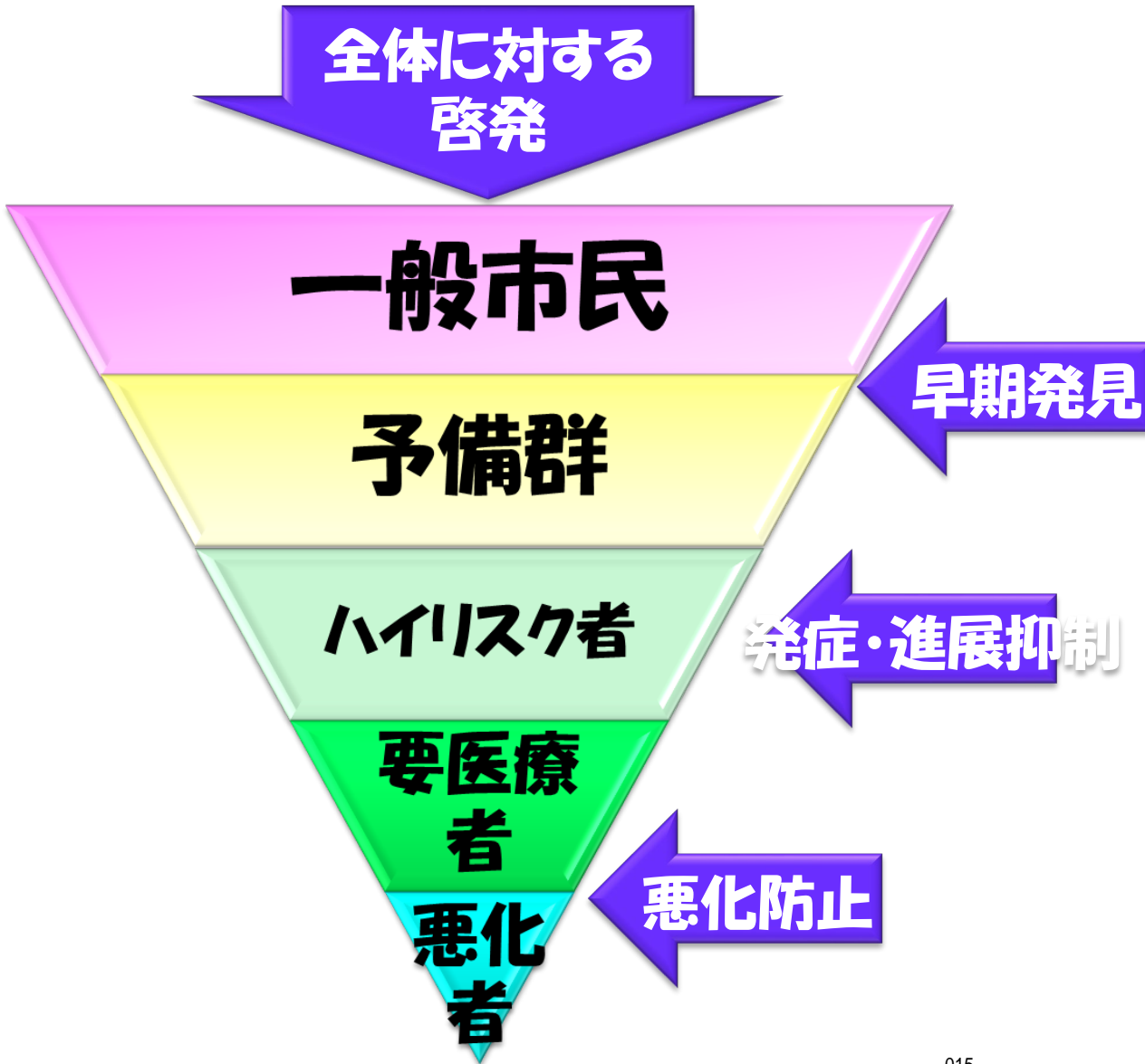
- 山梨大学第3内科
- 山梨慢性腎臓病対策協議会
- 県医師会
- 県歯科医師会
- 県薬剤師会
- 県栄養士会
- 協会けんぽ山梨支部
- 山梨県厚生連
- 山梨県腎臓病協議会
- 笛吹市役所健康づくり課
- 富士河口湖町役場健康増進課
- 保健所長会
- 山梨県健康増進課

山梨県腎臓専門医会議



- 紹介状をお持ちの患者様はお断りしません
- 原則として患者様をお返しします
- 健診機関から直接専門医へ紹介があった際は、原則的には患者様のご自宅近くのかかりつけ医へご紹介します
- 少ない受診回数で精査を終えて治療方針を伝達します
- 原則として再紹介チェックシートを添付します

山梨県のCKD対策



CKD対策の具体案

紹介基準の作成

紹介状様式の作成

紹介後のフォロー先の明示

専門医・専門医療施設名簿の作成

病診連携登録医制度の制定

再紹介基準の作成

再紹介チェックシートの作成

かかりつけ医説明会の開催

定期的なアンケート実施

栄養士の連携システムの構築

山梨県CKD病診連携基準

① eGFR値による紹介基準



- 40歳未満の患者さん
60mL/分/1.73m²未満
- 40歳以上70歳未満の患者さん
50mL/分/1.73m²未満
- 70歳以上の患者さん
40mL/分/1.73m²未満
- 3ヶ月以内に30%以上のeGFRの低下



② 蛋白尿による紹介基準

- 検尿の場合
蛋白尿 2+以上
- 尿蛋白/尿クレアチニン比
0.5 g/gCr以上(随時尿)
- 蛋白尿と血尿
ともに陽性(1+以上)
- 糖尿病がある場合
程度は問わず蛋白尿が陽性



患者さんの検査値が、上記の①または②の項目に1つでも該当する場合は腎臓病診療施設と連携して診療する。

ご紹介いただく際のお願い

- ✓ 健診で指摘されたeGFRの異常はご紹介いただく前に再検査をお願いします。
(絶飲食下では脱水によりeGFRが低めに出来ますので、自由飲水・摂食下でご再検ください。)
- ✓ 蛋白尿の異常は可能な限り尿蛋白/尿クレアチニン比を定量してご紹介ください。
- ✓ 可能な限り血清クレアチニン(Cr)値の経時的推移をお知らせください。
- ✓ 診療情報提供書に必ず今後のフォロー先(紹介元・専門医・どちらでもよい)を明記してください。
- ✓ 必ず現在の処方内容と半年以内の処方変更歴や臨時処方をお知らせください。
(患者さんに過去半年分のお薬手帳を持参させていただいても結構です。)

かかりつけ医

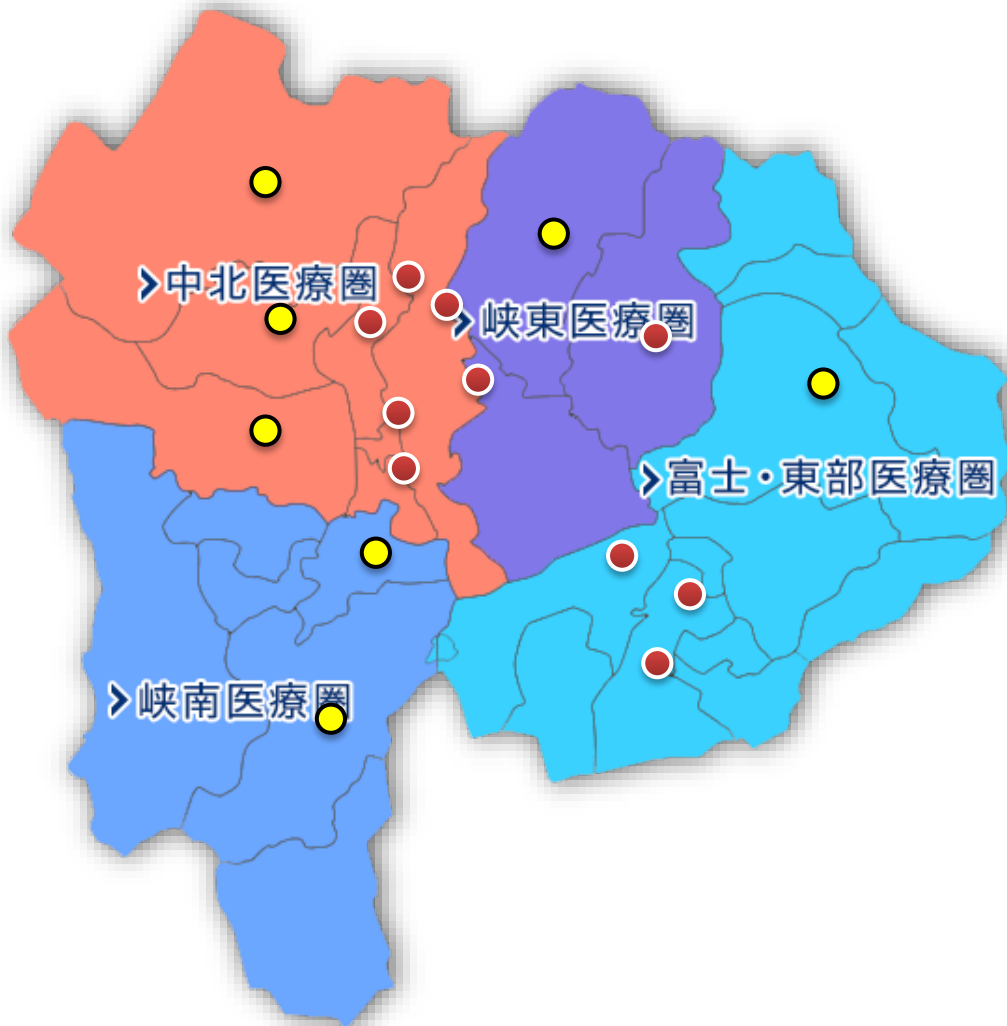
腎臓病診療施設
名簿をご参照ください

山梨県CKD病診連携基準

施設名	外来診察日		保存期外来	腎生検	透析導入	腎移植
	<午前>	<午後>				
山梨大学医学部附属病院	月・火・水・木・金		○	○	○	○
山梨県立中央病院	月・火・水・木・金		○	○	○	
市立甲府病院	火・木	月・水・金	○	○	○	
山梨赤十字病院	月・火・木	月	○	○	○	
富士吉田市立病院	月・金		○	○	○	
加納岩総合病院	火・金		○		○	
大月市立中央病院	月・金	金	○		○	
身延山病院		水	○		○	
韮崎市立病院		火	○			
原口内科・腎クリニック	月・火・水・金・土	月・火・水・金	○			
櫻林腎・内科クリニック	月・火・水・木・金・土	月・水・金	○		○	
まつした腎クリニック	月・火・水・木・金	月・火・水・木・金	○		○	
東甲府医院	月・火・金・土	月・火・金	○		○	
高田内科クリニック	月・火・水・金・土	月・火・水・金	○			
白根徳洲会病院	木・金		○		○	
市川三郷病院	火・水		○			

017

※休診などの場合がございいますので、ご紹介前に必ず各医療機関にご確認くださいようお願い申し上げます。



CKD病診連携医(かかりつけ医) ⇒ 腎臓専門医療機関

山梨県CKD病診連携紹介状【初診用】（診療情報提供書）

下記の患者をご紹介申し上げます。ご高診をよろしく申し上げます。 平成 年 月 日

<紹介先医療機関>

医療機関名

先生

<紹介元医療機関>

医療機関名

担当医師

電話・FAX

患者氏名		様	性別	生年月日	大正・昭和・平成 年 月 日 (歳)		
傷病名			住所				
			電話番号		職業		
紹介基準 (該当項目に チェック)	<input type="checkbox"/> ①40歳未満	eGFR60未満		<input type="checkbox"/> ⑤尿蛋白2+以上			
	<input type="checkbox"/> ②40歳～69歳	eGFR50未満		<input type="checkbox"/> ⑥尿蛋白/尿クレアチニン比 0.5g/gCr以上			
	<input type="checkbox"/> ③70歳以上	eGFR40未満		<input type="checkbox"/> ⑦尿蛋白と血尿がともに陽性(1+以上)			
	<input type="checkbox"/> ④3ヶ月以内に30%以上のeGFRの低下			<input type="checkbox"/> ⑧糖尿病がある場合は程度を問わず尿蛋白が陽性			
検査所見 (検査結果の コピーを添付 でも可)	eGFR		血清クレアチニン mg/dL				
	尿蛋白	- ± + 2+ 3+	血尿 - ± + 2+ 3+				
	血压 / mmHg						
	尿蛋白/尿クレアチニン比 g/gCr						
糖尿病性腎症が疑われる場合			血糖 mg/dL (空腹・食後 時間)				
			HbA1c %				
既往歴 及び 家族歴							
症状経過							
治療経過							
現在の処方 (処方箋の コピーも可)							
紹介後の 方針							
* 今後のフォロー先のチェックをお願いします。							
<input type="checkbox"/> 紹介元(自院)のみ		<input type="checkbox"/> 専門医に任せる			<input type="checkbox"/> どちらでもよい		

<ご紹介いただく際のお願い> ※各項目をご確認の上、にチェックをお願いします。

- 健診で指摘されたeGFRの異常はご紹介いただく前に再検査をお願いします。
(絶飲食下では脱水によりeGFRが低めに出来ますので、自由飲水・摂食下でご再検ください。)
- 蛋白尿の異常は可能な限り尿蛋白/尿クレアチニン比を定量してご紹介ください。
- 可能な限り血清クレアチニン(Cr)値の経時的推移をお知らせください。
- 診療情報提供書に必ず今後のフォロー先(紹介元・専門医・どちらでもよい)を明記してください。
- 必ず現在の処方内容と半年以内の処方変更歴や臨時処方をお知らせください。
(患者さんに過去半年分のお薬手帳を持参させていただいても結構です。)

山梨県CKD対策推進 再紹介チェックシート

患者名: **山田 花子** 様 生年月日: **1965** 年 **11** 月 **4** 日 (**49** 歳) 男・**女**

連携腎臓専門医

病院名:

山梨大学病院

医師名:

北村 健一郎

- ・患者様受診時の定期的なチェックにご使用ください。
- ・下記再紹介指針はあくまで目安です。先生方のご判断で再紹介をご検討ください。
- ・ご紹介いただく際は診療情報提供書と検査データの時系列等を添付してください。

<栄養指導>

- 本患者には栄養指導は不要と判断します。
- 当院で栄養指導済です。
- 貴院で栄養指導をご検討下さい。

	チェック項目	再紹介の判断指針	
身体所見	血圧	130/80 mmHg	左記の値より頻回に30mmHg以上上昇した場合
	体重		2 kg/月以上急激に増加した場合
	浮腫		浮腫が増悪した場合
	心不全症状		呼吸困難・心不全症状の出現
検査所見	血清クレアチニン値	1.75 mg/dL	左記の値より高くなった場合
	eGFR	25.3 mL/分 /1.73m ²	左記の値より低くなった場合
	血清カリウム値		5.5 mEq/L以上に上昇した場合
	ヘモグロビン値	11.0 g/dL	左記の値より低くなった場合
	尿蛋白/尿クレアチニン比	0.5 g/gCr	左記の値より多くなった場合

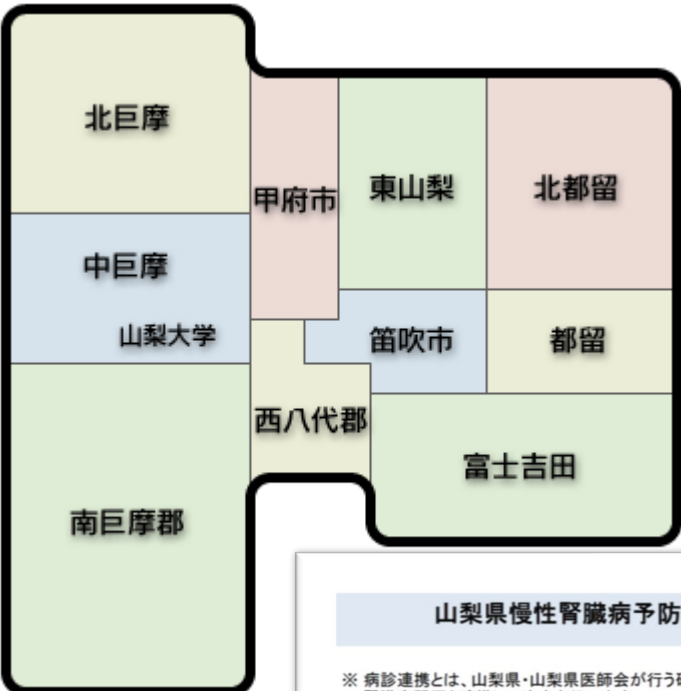
項目	指導内容
総エネルギー	1800 kcal
たんぱく質	40 g
塩分	6.0 g
カリウム	1500 mg

※外来での栄養指導は、山梨県栄養士会から管理栄養士を派遣していただく方法もあります。
ご希望の場合は、山梨県栄養士会にご相談下さい。
山梨県栄養士会:055(222)8593

糖尿病専門医との連携	
<input checked="" type="checkbox"/> 糖尿病専門医へ紹介することを推奨します	
HbA1c	8.2 %
血糖値 (食後 2 時間)	214 mg/dL

次回再診日 年 月 日 午前・午後 時 分⁰¹⁹から・上記再紹介指針のいずれかを満たすとき

CKD病診連携登録医制度



- ・ 病診連携基準
- ・ 紹介時のお願いごと
- ・ 腎臓病専門医療施設
- ・ CKDの治療法

山梨県慢性腎臓病予防推進事業 病診連携医 名簿 (平成30年4月1日現在)

※ 病診連携とは、山梨県・山梨県医師会が行う研修会に参加され、慢性腎臓病(CKD)対策の推進に賛同・協力いただけるかかりつけ医です。腎臓専門医と連携して治療を行います。

認定期間：平成32年3月31日まで

氏名	施設名	住所	TEL
藤原 ひとみ	(医)藤原医院	甲府市 塩部四丁目15-16	055-252-2588
前田 達朗	(医)前田内科クリニック	甲府市 塩部四丁目4-8	055-253-8528
齊藤 真知子	竹居医院	甲府市 美咲一丁目11-15	055-252-3908
井上 利男	(医)井上内科小児科医院	甲府市 朝日一丁目4-12	055-251-7700
中村 俊也	なかむら内科クリニック	甲府市 武田三丁目3-11	055-255-1170
筋本 浩	(医)筋本外科整形外科医院	甲府市 北口三丁目1-1	055-253-3532
若宮 稔	わかみや内科クリニック	甲府市 湯田二丁目19-2	055-287-6377
依田 芳起	山梨県厚生連健康管理センター	甲府市 飯田一丁目1-26	055-223-3635
小野 隆彦	内科小児科小野医院	甲府市 黄川二丁目2-11	055-228-8822
佐藤 健司	こうふサザンクリニック	甲府市 徳行二丁目14-26	055-225-1133
...

山梨県慢性腎臓病予防推進事業
病診連携医認定証

様

山梨県慢性腎臓病予防推進事業
「病診連携医」として認定します

認定番号 第 号

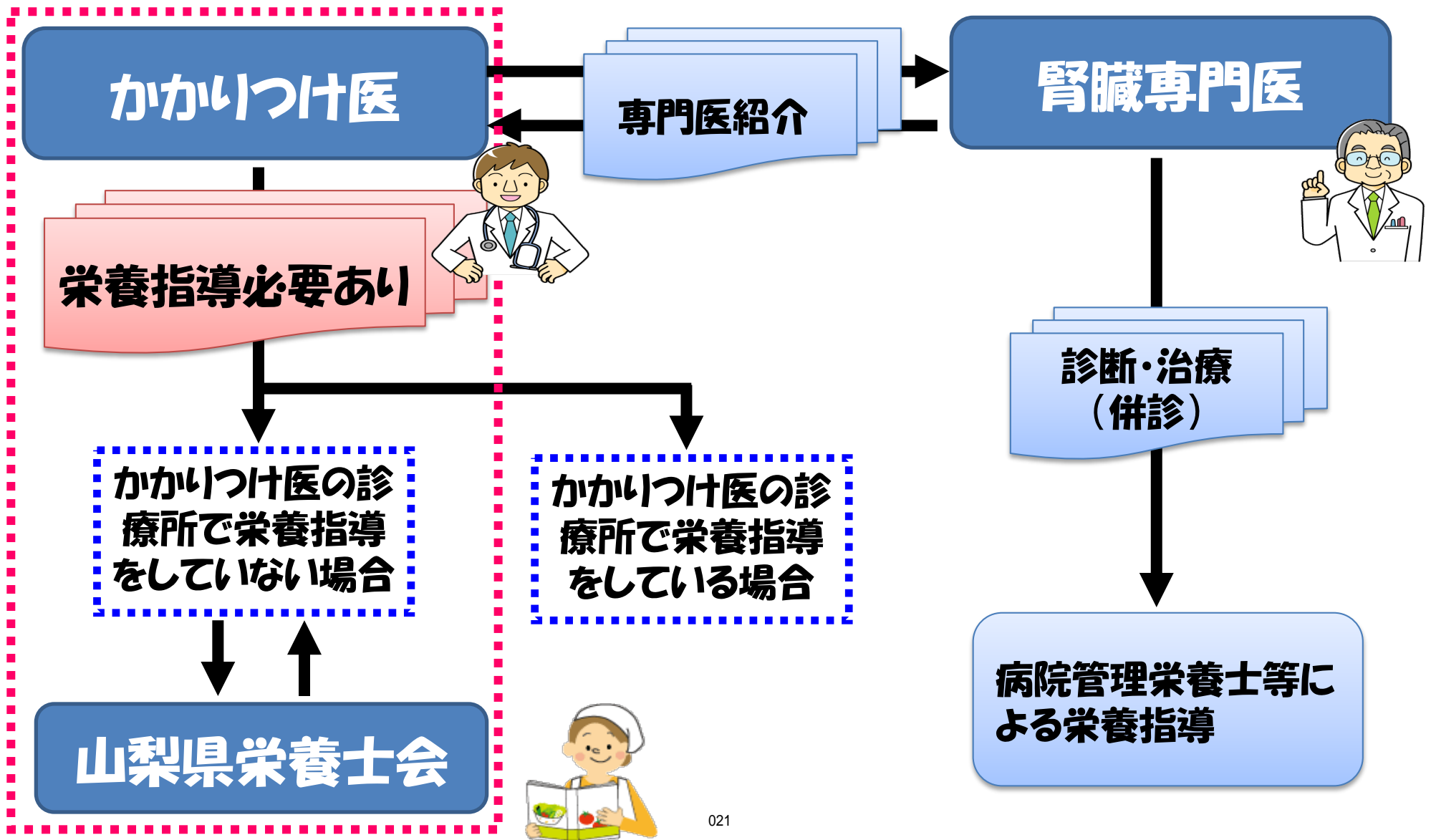
認定年月日 平成28年 3月 15日

認定期限 平成30年 3月 31日

山梨県知事 後藤 齋

山梨県医師会長 今井 立史

かかりつけ医と栄養士との連携システム



コメディカルの研修・会議

スキルアップ研修会



市町村保健師会議



メディアを用いた啓発

山梨県CKD病診連携システム

2016年(平成28年)2月11日 木曜日

文化ぶん・くら暮らし

慢性腎臓病 連携し防止

透析患者1割減へ県内で対策

山梨県内、新たな民間にも進む「透析連携(CKD)の予防・患者防止」に向けた取り組みが進展している。山梨大学病院の呼びかけで、地域のかかりつけ医から山梨への紹介基準を設定し、連携して患者数を減らすシステムがスタート。県のCKD対策協議会も定立し、行政と連携しながら、さらなる周知の活動を始める。県本庁舎での多岐の取り組みで、5年以内、全県で行われる患者の1割減を目指すという。

CKDは、全県成人の8割(約140万人)に同大主任は「意味は大きい。これまで60以上の病院で実施され、後、早大の協力を得て、透析が必要になる患者を減らす取り組みが、放っておくと、ひびくCKDの患者を増やして、さらなるCKDの患者を増やして、行政と連携しながら、さらなる周知の活動を始める。県本庁舎での多岐の取り組みで、5年以内、全県で行われる患者の1割減を目指すという。」

山梨大学病院の呼びかけで、地域のかかりつけ医から山梨への紹介基準を設定し、連携して患者数を減らすシステムがスタート。県のCKD対策協議会も定立し、行政と連携しながら、さらなる周知の活動を始める。県本庁舎での多岐の取り組みで、5年以内、全県で行われる患者の1割減を目指すという。

専門医への紹介基準設定

山梨大学病院の呼びかけで、地域のかかりつけ医から山梨への紹介基準を設定し、連携して患者数を減らすシステムがスタート。県のCKD対策協議会も定立し、行政と連携しながら、さらなる周知の活動を始める。県本庁舎での多岐の取り組みで、5年以内、全県で行われる患者の1割減を目指すという。

山梨大学病院の呼びかけで、地域のかかりつけ医から山梨への紹介基準を設定し、連携して患者数を減らすシステムがスタート。県のCKD対策協議会も定立し、行政と連携しながら、さらなる周知の活動を始める。県本庁舎での多岐の取り組みで、5年以内、全県で行われる患者の1割減を目指すという。

TV CM



山梨県におけるCKD啓発イベント

世界腎臓Day2019 in山梨

～あなたの腎臓大丈夫？～

2019年2月17日(日)
10:00～16:30
イオンモール甲府昭和
(1Fさくら広場・3Fイオンホール)
参加費無料

1Fさくら広場
10:00～16:30

健康相談コーナー

医療従事者による健康相談。

血圧・血糖・血管年齢測定コーナー

あなたの血圧・血糖・血管年齢をご存じですか？
尿試験紙の配布も行います。

味覚(塩分)チェックコーナー

あなたの塩分の感じ方をチェックしませんか？

展示&ミニレクチャーコーナー

腎臓病に関する情報提供を行います。

※Y-CKDIを中心とした医療関係団体が運営いたします。



【県民公開講座に関するお問い合わせ先】

9:00～16:30(土日・祝日を除く)

中外製薬株式会社 長野・山梨支店
馬瀬 TEL:055-227-9711

共催: 山梨県・山梨県医師会・山梨大学医学部第3内科
Y-CKDI(山梨慢性腎臓病対策協議会)
山梨県臨床検査技師会・山梨県看護協会
山梨県栄養士会・ロシユDCジャパン株式会社
フタ電子株式会社
中外製薬株式会社(県民公開講座のみ)

後援: NPO法人日本腎臓病協会
公益財団法人日本腎臓財団・山梨日日新聞社
山梨県薬剤師会・山梨県病院薬剤師会
山梨県腎臓病協議会・全国健康保険協会山梨支部
山梨産業保健総合支援センター、すこやか山梨21推進会議、昭和町

3月第2木曜日は
世界腎臓Day!!



3Fイオンホール

第1部10:40～12:00・第2部14:00～15:20
(10:10開場) (13:30開場)

講演は第1部、第2部とも同じ内容です。

県民公開講座

講演①

演題:慢性腎臓病(CKD)について

講師 第1部:原口 和貴 先生(原口内科・腎クリニック)
第2部:古屋 文彦 先生(山梨大学病院 第3内科)

講演②

演題:慢性腎臓病(CKD)患者さんの
食事療法について

講師 第1部・第2部:平井 美樹夫 先生
(山梨県立北病院 栄養管理科)

※事前申し込み:不要、先着順(座席を150席ほどご用意しております)



2019年2月17日 イオンモール甲府昭和 来場者数500名超

山梨CKD医療連携ニュースレター

発行：山梨慢性腎臓病対策協議会(YCKDD)

事務局：〒400-0118 山梨県甲府市後宮2975-1 原口内科・腎臓内科内 TEL: 055-267-5500 Email: yckdd2010@yckdd.jp

富士吉田市立病院のCKD病診連携の現状

富士吉田市立病院 腎臓内科 廣瀬 真 先生



山梨県で2015年度から慢性腎臓病予防推進事業が開始され、かかりつけ医の先生方と日々腎臓専門医の緊密な連携が図られるように

なり、早期の段階から御紹介いただけるようになりました。

また、2017年4月から腎臓専門医の宮下和久先生と山梨大学第3内科から出向されている山口安乃先生が新たに当院内科に赴任され、現在は3人体制で腎臓内科の診療を行っています。

2015年4月1日から2018年3月31日までに※近隣の先生方から山梨県CKD病診連携システムに沿って当院腎臓内科に新規に御紹介いただいた症例は、3年間で合計170例(初診時の平均年齢 67.3±17.5歳、Cre 1.5±1.0mg/dl, eGFR 46.6±27.0ml/min, 尿蛋白 1.6±2.9g/g・Cre)のCKD患者さんを新たに御紹介いただいております。2015年度が48例、2016年度が52例でしたが、2017年度には70例となっており、おかげ様で前年度までの約1.5倍程度に増加しております。170例の腎機能・尿蛋白量をCKDのステージ別に①にお示しします。

スクリーニングの検査ではANCA陽性が3例、抗GBM抗体陽性が2例、血中M蛋白またはベンスシヨーンズ蛋白を認め、多発性骨髄腫が疑われ血液内科に御紹介した症例が4例ありました。

これまでに170人中13人が既に腎生検を行い、IgA腎症4例、微小変化群4例、膜性腎症2例、ループス腎炎1例、原発性アミロイドーシス1例、膠原病系糸球体沈着症1例でした。IgA腎症に対しては当院耳鼻咽喉科と連携して扁桃摘出術＋ステロイドパルス療法を行っております。微小変化群・膜性腎症などに対してはステロイド・免疫抑制剤などを用いて治療を行っています。ループス腎炎・原発性アミロイドーシスについては他院に御紹介させていただきまし

た。これらの症例は早期発見によって早期に診断・治療に至った症例であり、このCKD病診連携システムが極めて有用であった症例であると思われま。腎生検をしていない患者さんの原疾患を推定したもので、腎硬化症が49名、慢性糸球体腎炎29名、糖尿病性腎症26名、尿水や過度の降圧による腎前性腎不全8名、腎後性腎不全4名、片腎もしくは機能的片腎が4名、NSAIDs腎炎4名、肺炎腎が3名となっております。

また、かかりつけ医の先生方に継続通院されていた慢性腎不全患者さんが、Cre5mg/dl前後の末期慢性腎不全となり、透析導入を主目的として御紹介いただいた症例が上記170例とは別に3年間で合計15例(平均年齢 70.5±13.0歳、Cre 5.13±1.45mg/dl, eGFR 9.0±3.7ml/min)あり、うち10例が既に透析導入されております。

患者さんのさらなる病状の増悪や自己管理の徹底を図って重症化を予防していくため、今後はCKD教育入院を開始する予定であり、日本腎不全看護学会の慢性腎臓病看護指導看護師・日本看護協会の透析看護認定看護師の資格を取得した看護師と協力して、現在体制作りをしているところです。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

※院内からの他科依頼や、他県からの転居などに伴う御紹介、他院腎臓内科区からの御紹介、かかりつけ医の先生に一度お返した症例の再紹介などは含まれておりません。

腎臓病	腎臓病区分	A1	A2	A3	
糖尿病	尿アルブミン定量(mg/day)	正常	微量アルブミン尿	顕性アルブミン尿	
	尿アルブミン/Cre比(mg/gCr)	30未満	30~299		
高血圧腎症 多発性骨髄腫 腎臓病 その他	尿蛋白定量(g/gCr)	正常	軽度蛋白尿	高度蛋白尿	
	尿蛋白/Cre比(g/gCr比)	0.15未満	0.15~0.49	0.50以上	
GFR区分 (ml/分/1.73m ²)	G1 正常または高値	≥90	8人	1人	7人
	G2 正常または軽度低下	60~89	8人	5人	19人
	G3a 軽度～中等度低下	45~59	19人	1人	15人
	G3b 中等度～高度低下	30~44	11人	9人	16人
	G4 高度低下	15~29	4人	3人	13人
	G5 末期慢性腎不全	<15		3人	8人

図1

山梨県慢性腎臓病予防推進事業中間報告会

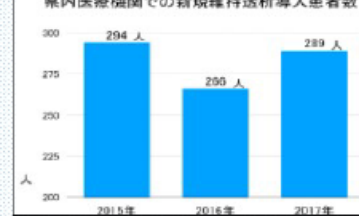
山梨大学医学部内科学講座第3教室 教授 北村 健一郎 先生

平素より山梨県の慢性腎臓病(CKD)対策にご協力を賜り、誠にありがとうございます。山梨県では2015年度から慢性腎臓病予防推進事業として県主導のCKD対策を展開しております。5年計画でスタートした本事業も開始からすでに3年が経過しました。そこで、この度事業成果の中間解析を行い、その結果を次の2年間の取り組みへ反映させ、CKD対策をさらに盤石なものにしたいと考えてに至りました。本稿では、去る7月30日に開催されました山梨県慢性腎臓病予防推進事業中間報告会の内容についてご報告いたします。

本事業は山梨県の新規人工透析導入患者数を5年間で10%減少させることを目標として掲げました。この目標を達成するために、山梨県健康増進課を筆頭に、県医師会、県歯科医師会、県薬剤師会、県栄養士会、大学、専門医、保険者、健診機関、患者団体など各種公的・準公的団体の代表者から構成される山梨県慢性腎臓病予防推進対策協議会を設立し、啓発・早期発見、発症予防、重症化防止を3本柱として、各種取り組みを行ってまいりました。啓発・早期発見の取り組みとしては、CKD啓発CMのスポット放送、啓発ポスターの公共交通機関における掲示、啓発パンフレットの配布を行いました。毎年2月末日の日曜日に「世界腎臓day in 山梨～あなたの腎臓大丈夫?～」と

いう県民イベントをショッピングモールにおいて開催し、CKD啓発活動、尿試紙配布、栄養相談、健康相談などを行い、毎年500名以上の県民の皆様にご参加いただいております。さらに市町村の特定健診における血圧Or測定費用の助成を行うとともに特定健診未受診者への受診勧奨を行いました。発症予防の取り組みとしては、市町村の保健師に対してCKDに対する理解と指導力の向上のためにスキルアップ研修会を定期的に開催し、市町村におけるCKD予防教室の開催を促進するとともに特定保健指導の充実を図りました。重症化防止の取り組みとしては、かかりつけ医と腎臓専門医による病診連携システムの構築を行い、2人主治医制の確立を目指しました。病診連携を促進

県内医療機関での新規維持透析導入患者数



山梨県におけるCKD病診連携の実態

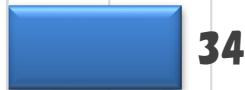
CKD病診連携医・腎臓専門医に対し
定期的にアンケート調査を実施

平成27年度

紹介したことがある



紹介したことがない



平成29年度

紹介したことがある



紹介したことがない



平成27年度



平成28年度



平成29年度



薬物治療への助言



治療方針の伝達



生活指導への助言



食事指導への助言



専門医による生活指導



専門医による食事指導



専門医による診断



専門医での治療



腎代替療法の導入



その他 1.1

アンケートから見えてきた課題

専門医への紹介患者数	259名	
専門医から戻ってきた患者数	194名	75%
再紹介チェックシートが同封されていた数	113名	58%

- ・ 患者さんをお戻しする2人主治医制の徹底
- ・ 再紹介チェックシート同封の徹底



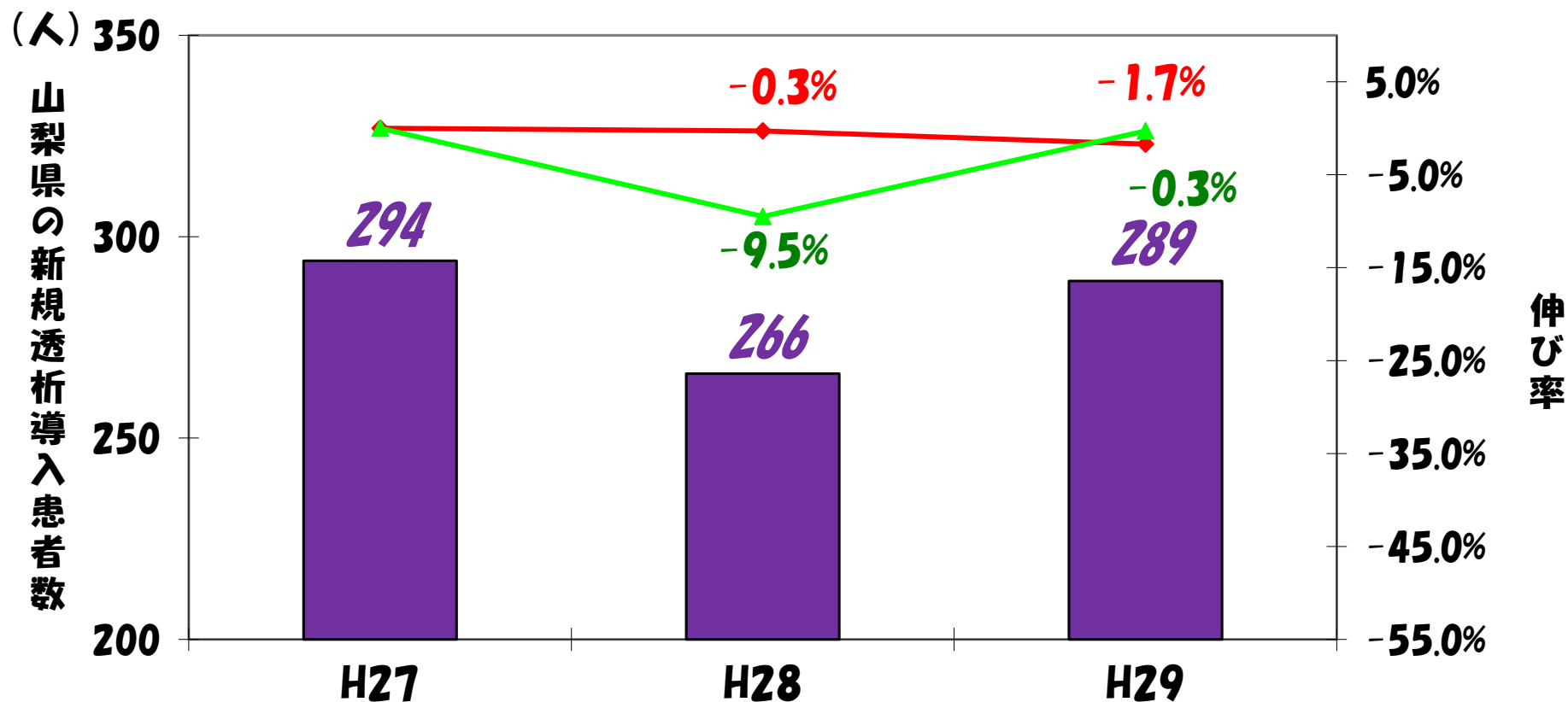
腎臓専門医会議での再確認

- ・ 専門医におくると患者・返事が戻ってこない
- ・ 紹介基準が厳しく、紹介先の医療機関が飽和してしまうのではないか
- ・ 食事療法の指導が少ない
- ・ 専門医によって病状に対する考え方や連携システムへの理解度が異なる



腎臓専門医会議でのフィードバック
ニュースレター⁰²⁶での回答

山梨県の新規透析導入患者数の推移

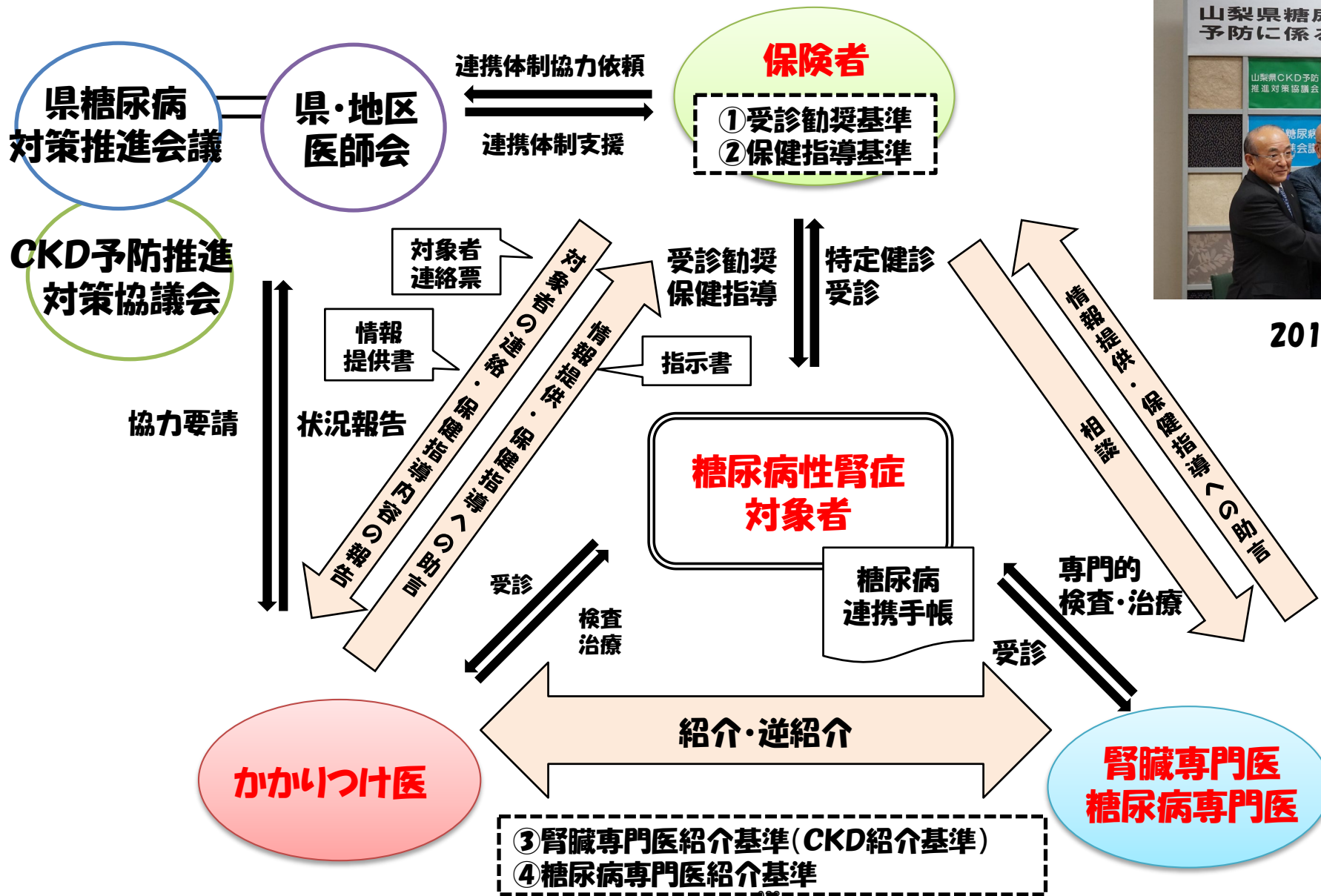


平成28年度単年で1億4千万円
平成29年度単年で2500万円
累積で3億円の医療費削減効果

■ 新規透析導入者数
 ◆ 全国の伸び率
 ▲ 山梨県の伸び率

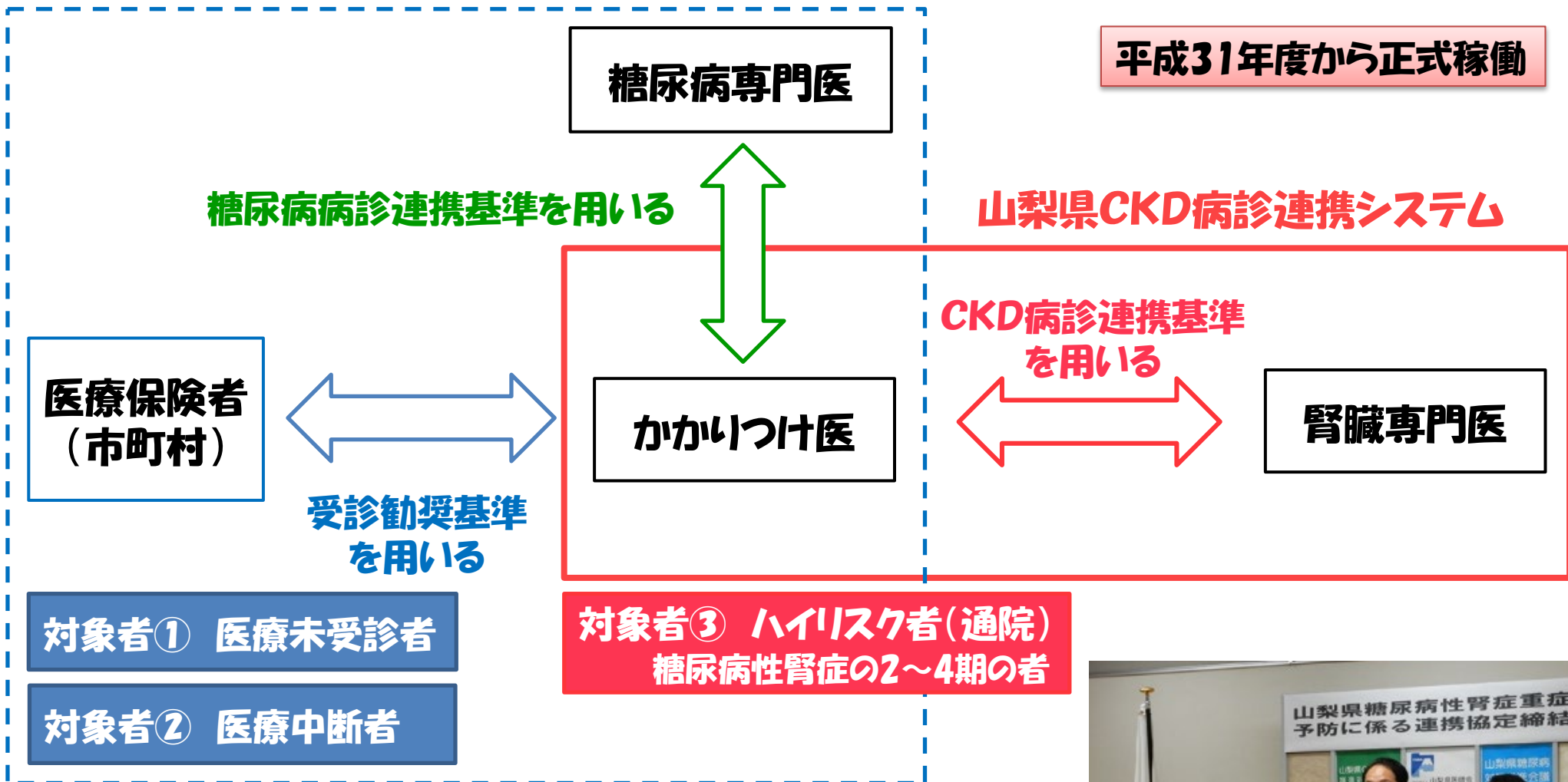
* 山梨県の調査データ及び「わが国の慢性透析療法の現況」から算定

山梨県糖尿病性腎症重症化予防プログラム



2018年11月19日締結

山梨県糖尿病性腎症重症化予防プログラム



平成31年度から正式稼働

既存のCKD病診連携システムをベースとした山梨県独自の糖尿病成人症重症化予防システムを構築



受診勧奨および保健指導のフロー

糖尿病性腎症対象者

未受診者・治療中断者に対する受診勧奨

未受診者

治療中断

受診勧奨基準(推奨基準)

空腹時血糖126mg/dL(随時血糖200mg/dL)以上又はHbA1c6.5%以上の者のうち、蛋白尿を認める者又はeGFRが60mL/分/1.73m²未満の者

なお、eGFRについては、山梨県CKD病診連携基準を参考に、40歳未満の者は60mL/分/1.73m²未満、40歳以上70歳未満の者は50mL/分/1.73m²未満、70歳以上の者は40mL/分/1.73m²未満

糖尿病により医療機関受診中の患者のうち、最終の受診日から6か月経過しても糖尿病の受診歴がない者

ただし、かかりつけ医が治療の必要がないと判断されている場合もあるため、保険者からかかりつけ医に治療の有無等の意見を聞き、かかりつけ医や患者本人に受診や治療等について確認しながら、受診勧奨の必要性を判断

かかりつけ医等へ受診勧奨

ハイリスク者に対する保健指導

糖尿病性腎症通院中

保険者が候補者名簿作成

保健指導基準(推奨基準)

糖尿病性腎症の病期が第2期、第3期及び第4期と思われる者のうち、保健指導への参加について本人及びかかりつけ医の同意があった者
第3期の者を中心とし、第2期及び第4期の者は保健指導が必要であるとかかりつけ医が判断した者
また、医療機関で糖尿病透析予防指導管理がされている者やその他の疾患を有している者の保健指導については、保険者とかかりつけ医で判断

本人の同意
かかりつけ医の同意

かかりつけ医



糖尿病専門医

腎臓専門医

保健指導

保健指導の内容をかかりつけ医へ報告

かかりつけ医から専門医への紹介フロー

糖尿病性腎症対象者

かかりつけ医

腎臓専門医紹介基準

- eGFR値による紹介基準
 - ・40歳未満:60mL/分/1.73m²未満
 - ・40歳以上70歳未満:50mL/分/1.73m²未満
 - ・70歳以上:40mL/分/1.73m²未満
 - ・3ヶ月以内に30%以上のeGFRの低下
- 蛋白尿による紹介基準
 - ・検尿の場合:蛋白尿 2+以上
 - ・尿蛋白/尿クレアチニン比:0.5g/gCr以上(随時尿)
 - ・蛋白尿と血尿:ともに陽性(1+以上)
 - ・糖尿病がある場合:程度は問わず蛋白尿が陽性

腎臓専門医

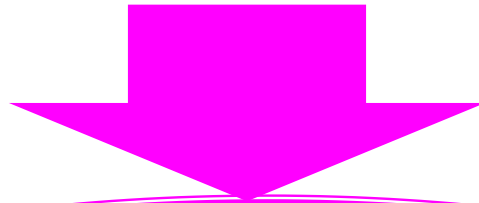
糖尿病専門医紹介基準

- 血糖コントロール改善・治療調整
 - 1) 血糖コントロール目標(HbA1c 8.0%以上)が達成できない状態が3ヶ月以上持続する場合
 - 2) 高血糖(300mg/dl以上)に加えて脱水または尿ケトン陽性の場合
- 教育入院
食事・運動療法、服薬、インスリン注射、血糖自己測定など、外来で十分に指導ができない場合
- 慢性合併症
慢性合併症(網膜症、腎症、神経障害、冠動脈疾患、脳血管疾患、末梢動脈疾患など)の発症、進展が認められる場合

糖尿病専門医

- **県民のCKDに対する認知度・理解度向上、健診受診率アップのための普及・啓発活動の推進**
- **未治療者、治療中断者の抽出と受診勧奨の促進**
- **CKD病診連携数増加のためのさらなる対策と専門医の対応の徹底**
- **県栄養士会との連携強化によるかかりつけ医における栄養指導の促進**
- **腎臓専門医の育成と地域貢献**
- **薬剤師会との連携推進(CKDシールや処方箋への腎機能記載促進)**

今後も関係者の方々と一緒に
「**智恵**を出し合い」「**協働**」で取り組む



山梨県民の健康づくり

